



オクソン 倶楽部



2018年

私とオクソンの社長山口さんのお付き合いはかれこれ三十年になりましたか。

お嬢様恵ちゃんの肖像画を描かせていただいたのが機縁となります。今では女医として活躍している恵ちゃんですが、十才の頃、白いエプロンドレスを着てピアノの前に座ってもらいました。気持ちよく描けていい絵が出来、山口さんも大変喜んで下さいました。絵はずっと自宅に掛けておられました。最近その後、描いた山口さんの肖像と一緒にオクソンでお披露目となりました。

以来何点もの絵をご注文いただき描きました。オクソンビル二階の久壺庵には、名品の壺に花や果物をあしらった静物画が四季に合わせて飾られています。地下のサロンにはバイオリンとバラ、そしてアンティークドールとフルートを描いた静物画が掛かっています。それらは山口さんの拘りによるモチーフの選択と私のアイデアで出来たもので、それぞれに制作にまつわる楽しい思い出があります。久壺庵の静物の中で最初に描いたのは青磁の壺と牡丹です。どちらも縦長の物ですが、それを飾る壁にあわせた横長のキャンバスに収めるのに苦労しました。また柿右衛門の六角鉢には青梅を、三輪休雪の萩焼の白い色には柿の赤を合わせました。

また皆さんご存知のようにオクソンは常に新しい食のアイデアを求めています。その一つとして美食家で知られた画家ロートレックが作ったロートレックメニューがあります。あれは神戸大震災の翌年、私達夫婦と山口さん母娘で南フランスを巡りました。山口さんのロートレックメニューの研究にお供させていただいたわけですが、私達夫婦はそれが初めてのヨーロッパ旅行で、セザンヌやゴッホが描いた南フランスの明るい風景に感動しながらのスケッチ旅行となりました。当初水彩スケッチだけのつもりでしたが山口さんの勧めで油絵用具を購入し描きました。ニースのネグレスコホテルのベランダから見た海岸風景や、パリのプリストルホテルの庭園風景は、描かれた絵と共に今でもその時の情景を鮮明に思い出します。感動を再びと、私は以来幾度となくヨーロッパ写生旅行に行くことになりました。

料理の世界で、お客さんが店を育てると言う言葉がありますがそれは絵の世界でも同じことで私は山口さんのお付き合いの中でご支援をいただきながら多くのことを学ばせていただきました。レストラン経営において山口さんは料理は勿論の事、インテリア、調度品、定期的に開催している音楽会などにおいて常に一流を目指しています。食文化に始まり芸術分野にも精通する山口さんは本物を見分ける嗅覚を備えておられます。

その拘りと探求心がオクソン一流の証となっています。



プロフィール

いけだ せいめい
池田 晴明 / 画家

- 1951年 岡山県笠岡市神島に生まれる。
- 1974年 大阪芸術大学卒業後、大阪府立高校美術教諭をしながら一水会・日展を中心に絵画活動。
- 1976年 一水会初入選(一水会賞、文部大臣奨励賞など)
- 1987年 日展初入選(特選2回、審査員3回)
- 1992年 小磯良平大賞展入選(神戸市蔵)
- 2010年 鎌倉へ転居。
- 2015年 笠岡市立竹喬美術館企画 池田清明展が同館にて開催。
- 2016年 大阪芸術大学教授となる。 個展:梅田画廊 日本橋三越 高島屋等。

著書:『池田清明画集』(六藝書房1998、求龍堂2013)、『池田清明の人物画テクニック』(一枚の檜)、『ビギナーからステップアップ三原色できわめる油絵』2015(実業之日本社)

現在:一水会運営委員、日展特別会員、大阪芸術大学教授。

香り

香 / 薫 / 馨

smell

scent

aroma

fragrance

perfume

日本で「香」が用いられるようになったのは仏教伝来の六世紀、特別の芳香に神秘を感じて、病気や危険から身を守り願いを叶えてくれるものとして、又その香りを祈りに使ってきました。

595年夏、淡路島に漂着した一本の木を大和の帝に献上された時、聖徳太子はそれを香木沈香であると見抜いたと「日本書紀」に記述されています。

キリスト教ではイエス・キリストの誕生を祝って東方の三博士が当時最も貴重なる黄金と香料の乳香（にゅうこう＝ヨーロッパではマリアの涙と呼ぶ）と没薬（もつやく・ミルラ＝香りの良い強い防腐剤でミイラの製作に使用）の三つを捧げました。

エジプト女王クレオパトラはバラの香水風呂に入り湯上がりの肌には香油を擦り込んでいたとか。

奈良時代の東大寺や法隆寺など大寺院では主に仏前を浄め、邪気を払う「供香くこう・そなえこう」は香料を香炉の火種で焚いたり、仏像や修行者の身に塗る塗香など、仏教文化の中で受けられました。鑑真和上来日は仏教の戒律と共にたくさんの香薬と香の配合技術も伝えたそうです。

平安時代、唐の教養を学んだ貴族たちは仏のための供香だけでなく、日常生活の中でも香りを楽しむようになりました。香料を複雑に練り合わせ、香気を楽しむ「薫物・たきもの」や貴族たちは自ら調合した薫物を炭火でくゆらせ、部屋や衣服への「移香」を楽しみました。平安時代の王朝文学『枕草子』や『源氏物語』には香の記述が多く、宮中に御香所というものが設けられました。

鎌倉時代、武士が台頭し禅宗が広まると、香木そのものと向き合い、一木の香りをきわめようとする精神性が尊ばれます。この頃に香木の香りを繊細に鑑賞する「聞香」の方法が確立されました。茶の湯や立花、香も室町時代の將軍・足利義政の東山文化が花開きました。東大寺正倉院に伝世する香木「蘭奢待（らんじゃたい）」は足利義満、織田信長らが切り取った話は有名で、正親町天皇は「聖代の余薫」と明治天皇は「古めきしずか」と歌われました。

江戸時代、元禄以降は経済力をもった町人にも香文化が広まり、男性の教養のひとつで、志野流の門人帳には女性は一割位だったようです。「組香」の創作や、それを楽しむために優れた香道具が作られました。香を鑑賞するための作法が整えられ、香は「道」として確立。一方、中国からお線香の製造技術が伝わり、庶民の間にもお線香の使用が浸透していきます。十四世紀の京都で「茶香十炷の寄合」が流行り、茶席では冬季の炉には練香を夏季の風呂釜には香木が使い分けられて、現在に至っています。

西洋医学が伝わった際に精油（植物の花や葉、木部、果皮、樹皮、根、種子、樹脂などに含まれる天然の液体）を用いた医療が伝わり、精油を薬として利用。時代の変遷に伴い、現代の日本人の暮らしにあった香り文化はアロマセラピー学として薬理学、臭覚の生理学、心理学、精神科学、内科学、皮膚科学などの西洋医学の立場からもさらに研究されています。

アロマセラピーという言葉は、フランスの調香師ルネ＝モーリス・ガットフォセが自らのやけどを治したラベンダーの優れた治癒力に魅了され、1937年に『アロマセラピー』を著しアロマ（芳香）とセラピー（療法）を組み合わせ芳香療法をつくりました。100%植物から抽出された「精油＝エッセンシャルオイル」を利用するのが特徴で、リラックス効果、体調不良の改善、心身の強壮など、精油の種類によって様々な効果が得られると言われています。アロマは口と鼻の両方から入る感覚で、鼻だけならばパーフューム（perfume）、口から入るものにはフレーバー（flavor）という言葉を使います。

アロマセラピーのエピソード

17世紀にペストが大流行した南フランスでペスト患者の死体から金品を盗んでいた4人組の泥棒が捕まりました。泥棒に死刑を免除するのと引き換えに、ペストにかからなかった秘密を明かさせると、ローズマリー、タイム、セージ、ラベンダー、ミントetcのハーブを酢に漬けて作った殺菌効果の高いハーブビネガーを全身に塗っていたからとのことでした。

日本人の生活を支えてきた和ハーブの香

五節句の草木の香

◆一月七日 七草がゆ・春の七草

「セリ、ナズナ、ゴギョウ、ハコベラ、ホトケノザ、スズナ、スズシロ これぞ七草」平安時代の和歌。鎌倉時代までは汁物。

◆三月三日 雛まつり・桃

誕生した女兒を祝福し、雛人形を飾り、菱餅や桃の花も添えて、ちらし寿司や白酒などで宴を催す。

◆五月五日 端午の節句・菖蒲

誕生した男児を祝福し、鎧兜や人形を飾り、鯉のぼりを掲揚して、粽や柏餅に菖蒲の花を添え宴を催す。この時期、菖蒲湯に入り菖蒲の香気で厄を払い、無病息災を願います。

◆七月七日 七夕まつり・竹

牽牛、織女の二星を祭るとともに詩歌、縫製、染織などの技術上達を願う行事とされ、願い事を書いた短冊などを笹竹に付けて立てます。

◆九月九日 重陽の節句・菊

菊酒を飲み、菊の花びらは食材料に、又、菊の被綿に溜まった露で体を拭い健康と長寿を願います。

くろもじ・黒文字の香

クスノキ科の落葉低木。樹皮に黒斑がある。削って爪楊枝にするので、爪楊枝を黒文字ともいう。和のアロマ代表で香気があり、香油を採り、その香りから「神聖な木」とされた。狐の獲物を神に供える際、この枝にはさむなど、神祭りの木でした。

ユズ・柚子の香

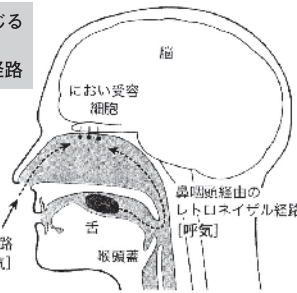
ユズの香りはある意味で代表的な和食の香り。冬至の「ユズ湯」は日本人の入浴剤の代表。ユズの香りはリラックス効果大です。

六国五味 (りっこくごみ)

香道の対象とする香は香木=沈香です。沈香の香りの微細な違いを鑑賞するのが香道の極。香木の分類や鑑賞の基本は「六国五味」。六国は産地で香木を分類。

- 伽羅 (きゃら・ベトナム産)
- 羅国 (ラコク・ミャンマー産)
- 真那伽 (まなか・マラッカ産)
- 真南蛮 (まなばん・マナンパル産)
- 寸間多羅 (すまたら・スマトラ産)
- 佐曾羅 (さそら・サスバル産)

呼吸で「風味」を感じる
第2の嗅覚
レトロネイザル経路



上記図は「美味しさの脳科学」
ゴードンMシェファード著の本より

五味は香味によって香りの相違を知り、辛・甘・酸・苦・鹹(かん)《シオカライ》を聞く。

香十徳

「香十徳」は11世紀の北宋の詩人の黄庭堅・作。その後一休宗純禅師(一休さん)の説話で広がる。

1. 感格鬼神…感は鬼神に格(いた)り
2. 清浄心身…心身を清浄にし
3. 能除汚穢…能(よ)く汚穢(おわい)を除き
4. 能覺睡眠…能(よ)く睡眠を覚し
5. 静中成友…静中に友と成り
6. 塵裏偷閑…塵裏(じんり)に閑(ひま)を偷(ぬす)む
7. 多而不厭…多くして厭(いと)わず
8. 寡而為足…寡(すくな)くして足れりとする
9. 久蔵不朽…久しく蔵(たくわ)えて朽ちず
10. 常用無障…常に用いて障り無し

「美味しさの脳科学」

著者 / イェール大学医学大学院教授ゴードンMシェファード

「おいが味わいをきめている。」美味しさ(味わい)は口ではなく、脳が創り出している。口中から鼻に抜けるにおいであり「おいしいイメージ」がパターンとして、脳で味わいを生み出すのだ。私たちの香りを知覚する方法はレトロネイザル(後鼻腔で口中香・呼吸と伴う風味の感覚)経路とオルソネイザル(前鼻腔で鼻からの一般的な嗅覚)経路と伴う感覚)経路の二通りがあり、レトロネイザル経路が食べ物や口に含んだときにくらべて立ち上がる香り。これこそが味わいの決め手だ。食材の「風味」が料理の味をきめる。

「香りが脳にもたらす良い影響」

脳科学者茂木健一郎「AROMASTIC」のイベントにて2016/10/08
良い香りを嗅ぐと幸せな気分になる。そして、嫌な香りを嗅ぐと不愉快な気分になりますよね。それは脳が「香り」に対して繊細だという証拠。香りと脳は非常に密接に関わり、ストレスがたまる時やプレッシャーなどで緊張する時に生じるマイナスな感情は、香りを嗅ぐことで気分転換できます。脳科学的に期待されることは気分転換とコンディショニングの調整です。香りの情報処理に使われている大脳辺縁系とは、「扁桃体」と呼ばれる感情の中心とか「海馬」という記憶の中枢があり、これらに働きかけることができるからです。

「香りや見た目で脳を勘違いさせる」

著者 東北大学大学院心理学研究室 坂井信之
鼻がつまっていないのに味や香りが分からなくなった時はアルツハイマー病やパーキンソン病などの疑いがあります。このような障害は脳で起きる複雑な障害のごく初期の段階で現れる可能性があり、こうした異変に気づくには毎朝、又は毎晩、石鹸やアロマオイルなど好きな香りをかいて「香りがしている」と確認する習慣を。風邪も引いていないのに、いきなり香りがわからなくなる場合は脳の病気を疑って！

「人間の五感の中で『嗅覚』だけが、本能の脳と呼ばれる、『大脳辺縁系』にダイレクトに作用する」

2004年、ノーベル医学生理学賞を米国のリチャード・アクセル氏とリンダ・バック氏が授与されました。

35 Q-zaemon Ave.35

Q-zaemon Ave. 35 Q-zaemon Ave. 35 Q-zaemon Ave. 35 Q-zaemon Ave. 35 Q-zaemon Ave. 35

過去に感謝し
現在に自信を
未来に希望を

関西電力病院
岩永迪孝

出合いに感謝

表法律事務所
表 昌子

柳に風

落語家
四代目 柳亭市馬

せやねん
おはよう朝日です

山岸久朗法律事務所
山岸 久朗

ほぼ三十年振りに来ました
昔のままで懐かし思いでした

不二製油株式会社
吉田友行

七十才にして立つ
八十才にしてまどわず
九十才にして天命を知る
百才にして耳順う
百才にして心の欲するところに
従えども法をこえず

株式会社ウオーターフロント
中島 俊夫

梅花 百雪に耐えて潔し
いつまでも榮えますように

杉山経営研究所
杉山 一彦

味わい絶妙
接客最上級
ママの愛が溢れるオクソンこそ
唯一無二のステークハウス

DJタレント三流でも舌は一流
楠雄二郎

音楽

GENERATIONの歌手・ダンサー
数原龍友

生きる時間に無駄はない
失敗こそ人生一念あれば
「時は必ず機会を与えてくれる
夢をあきらめず人生を全うしたい

大手前大学
松井博司

35 Q-zaemon Ave.35

オクソンの音楽会

第125回

世界を巡る三人のうつくしきミュージック達

マエストロ佐渡裕のorchestraで活躍のオーボエ・高橋幸子、シンフォニアールシスで山山俊吾イチオシのフルート本庄ちひろ、オクソンお馴染みの無尽蔵な能力を誇るピアノ沼光絵理佳がバロック音楽から映像音楽までをお贈りします。

京都市立芸術大学、
フランチリスト音楽大学卒業
高橋 幸子



Oboe



Flute

東京芸術大学卒業
沼光 絵理佳



Piano

京都市立芸術大学卒業
本庄 ちひろ

曲目

- ラヴェル 『バヴァーヌ』 コール・アンブレ
- マルチェロ 『オーボエ協奏曲二短調の第2楽章』
- ビゼー アルルの女より『メヌエット』フルート
- ビゼー 『カルメン幻想曲』フルート 等

お話し・山山 俊吾

国立ブルガリアソフィアフィルハーモニーオーケストラ
常任首席指揮者。

期 間 / 10月9日(火) ~ 10月13日(土)
料 金 / ￥18,900 (サ・飲物は別)
お食事時間 / PM6:00 ~
演奏時間 / PM8:00 ~ PM9:00

お食事は演奏後から可。特別コースの為、ご予約をお願い致します。

初心者も楽しめる

香道教室

香りは、見ることも触れることもできませんが人の心を優しく包み気持をとても優雅にしてくれます。
そして良い香りの御香を聞く(香りをかぐ)ことは好きな音楽を聴くことと同様の癒しをあなたに届けます。
さらに、新たな出会いや、和の心も学べます。御一緒に御香と遊んでみませんか。



香道体験

ご指導者

香道御家流第廿二世

二条西堯水宗家

日付 / 毎月第二金曜日

時間 / 午後一時(約二時間)

月謝 / 一月分は六千円

(三ヶ月分単位で
一万八千円を入金)

※香道体験費は一回三千円

毎月、東京より久壺庵にてご指導下さる御家流は室町時代の三條西実隆を流祖とした最も古い流派の御宗家です。

編集後記

今回の季刊誌のテーマ香から「料理の美味しさに重要なものに風味がある」のを学びました。一年前より久壺庵に茶室があるご縁から、香道教室にお仲間に入れていただきありがとうございます。雲母板上で柔らかく温められ、極小片の沈香木からの深い香りの世界を探究するひと時を：一緒にしませんか。
左下のQRコードによりオクソンのホームページがご覧いただけます。最新情報を掲載しています。

店主 山口



〒542-0086 大阪府中央区西心斎橋2-3-9 オクソンビル

1F ステーキ **オクソン** ☎06-6211-9898

2F なにわ懐石 **え壺庵** ☎06-6211-3220
しゃぶしゃぶ

3F オクソン倶楽部

ご予約専用 FAX 06-6211-8688
URL <http://www.oxon.jp>

発行者：山口 富久子